

箕面市オレンジゆずるバス再編計画（案）【概要版】

（令和5年 月）

1 計画の背景・目的

箕面市（以下「本市」という。）の地域公共交通は、鉄道（阪急電鉄箕面線）、路線バス（阪急バス株式会社）、コミュニティバス（オレンジゆずるバス）等により形成されていますが、令和5年度（2023年度）末には、新たに北大阪急行線（以下「北急線」という。）が本市萱野地域まで延伸します。




北急線の延伸に伴い、本市には「箕面萱野駅」と「箕面船場阪大前駅」の2駅が設置され、新たな交通結節点が創出されることから、鉄道整備と連携した市内の公共交通ネットワークの再構築が必要となっています。

そのため、路線バスについては、現在の千里中央駅を中心としたフィーダー型

※1の路線バス網から、箕面萱野駅及び箕面船場阪大前駅を中心としたフィーダー型の路線バス網への再編を予定しています。

路線バスを補完し、公共施設の利用などを主とした市内移動を担うオレンジゆずるバスについても、路線バスの再編等に応じて運行ルート等の見直しが必要です。

本計画は、このような変化をふまえ、地域公共交通網の機能強化とオレンジゆずるバスの更なる利便性の向上を目的として、オレンジゆずるバスの新たな運行ルートや運行ダイヤ等の再編に向けた具体的な取組内容について定めたものです。

	<h4>北急線の延伸</h4> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度（2023年度）未開業予定 新駅（箕面萱野駅、箕面船場阪大前駅）整備
	<h4>路線バスの再編</h4> <ul style="list-style-type: none"> 新駅（箕面萱野駅、箕面船場阪大前駅）を中心としたバス網に再編
	<h4>オレンジゆずるバスの再編</h4> <ul style="list-style-type: none"> 路線バスを補完 市内の主要施設（箕面駅、箕面市役所、市立病院等）と市内各所を結ぶ経路を設定

2 計画の期間

本計画は、令和5年度（2023年度）末の北急線の延伸に伴うオレンジゆずるバスの再編内容を位置づけた計画として策定するため、計画の始期は令和5年度（2023年度）と設定します。

また、令和9年度（2027年度）には、地域医療の中核であり、オレンジゆずるバスでの利用者も多い市立病院が船場東地域へ移転する予定であることから、オレンジゆずるバスについても改めてネットワークの見直しが必要になると見込まれるため、本計画の終期は令和8年度（2026年度）と設定します。

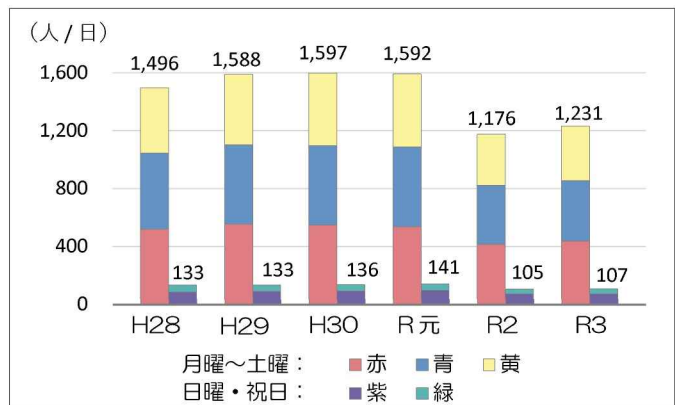
したがって、本計画の期間は令和5年度（2023年度）から令和8年度（2026年度）までの4年間とし、計画期間中の状況変化に応じて、適宜見直しを図ることとします。

※1 フィーダー型：本計画においては、複数の市町村に跨る基幹的な公共交通である鉄道駅と接続する形態のバス路線を指します。

3 オレンジゆずるバスの現状

1 日あたり利用者数の推移

オレンジゆずるバスの1日あたりの利用者数の推移については、全ルートにおいて、平成28年度(2016年度)から令和元年度(2019年度)まで増加傾向にありましたが、令和2年度(2020年度)には新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり利用者数が減少し、令和3年度(2021年度)はわずかに回復したものの、新型コロナウイルス感染症拡大以前の利用者数までは至っていません。



資料：箕面市地域公共交通活性化協議会資料

オレンジゆずるバスの利用時間

オレンジゆずるバス利用者の利用時間は、令和3年度(2021年度)の便別1日平均利用者数を見ると、月曜～土曜については3便(8時台)から10便(15時台)で利用者数が100人を超えています。一方で、1便(7時台)、12便(17時台)及び13便(18時台)では利用者数が少ない状況です。日曜・祝日については、紫ルートでは1便(9時台)において利用者が多く、4便(15時台)以降で利用者数が少ない状況です。緑ルートでは、全ての時間で利用者数が少ない状況です。

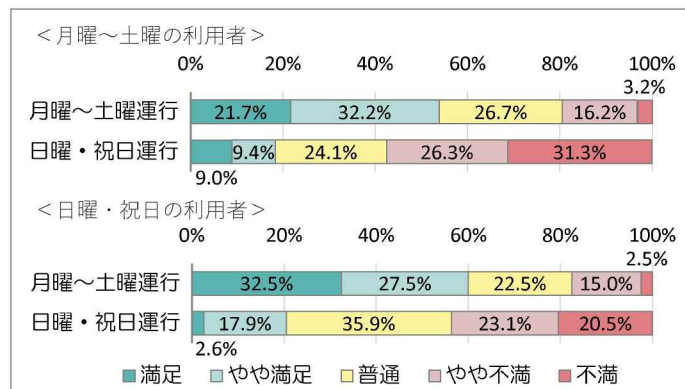


資料：箕面市地域公共交通活性化協議会資料

オレンジゆずるバスに関する満足度

オレンジゆずるバスに対する満足度は、月曜～土曜の運行に関しては、50%以上のかたが「満足」及び「やや満足」と回答しており、「やや不満」及び「不満」は20%以下です。

しかし、日曜・祝日の運行に関しては、「満足」及び「やや満足」は約20%、「やや不満」及び「不満」が40%以上です。



資料：オレンジゆずるバス利用者アンケート(令和4年(2022年)7月実施)

4 オレンジゆずるバスの課題

課題1 公共施設の利用などを主とした市内移動の確保

オレンジゆずるバス利用者の目的施設・場所として、「箕面駅」や「市立病院」等の施設が多いことから、市内主要施設へのアクセスについては、引き続き確保する必要があります。



箕面駅



箕面市立病院



箕面市役所

資料：箕面市ホームページ

課題2 利用目的・時間に対応した運行の実施

オレンジゆずるバスの利用目的は、通院や買い物が多いことから、それらの利用時間に対応した運行の実施が必要です。

また、現在のオレンジゆずるバスの運行では、利用者の多い主要な区間（箕面駅～市立病院～かやの中央）において混雑の発生や定時性の確保に課題があることから、運行ルートや運行時間の見直し、増便等を検討する必要があります。

そのほか、日曜・祝日の運行については、運行ルート・便数などに対する不満が多く、利用者が少ないことから、ルートの見直しを含む全体的な見直しが必要です。

課題3 高齢者等の交通弱者への配慮

今後も総人口に占める老年人口（65歳以上）割合の増加が予想されることから、高齢者の利用が多いオレンジゆずるバスでは、引き続き高齢者等の交通弱者が利用しやすい運行サービスの実施について検討していく必要があります。

課題4 将来にわたって運行を維持していくための意識醸成及び利用促進

オレンジゆずるバスは、高齢者の利用が多く、将来の公共交通を支える子ども（～10歳代）やその親世代（20～40歳代）の利用が少ない状況です。

将来にわたって運行を維持していくためには、子どもやその親世代にオレンジゆずるバスの利用を促し、自分達の手で公共交通を守り・育てていく意識を醸成することや、小さな頃から公共交通を身近なものとして捉える土壌を育成する必要があります。



オレンジゆずるバス

5 本計画の策定体制

市民協働の計画づくり

本計画の策定にあたっては、市民や商業・交通事業者など幅広い関係者で構成された箕面市地域公共交通活性化協議会やオレンジゆずるバス再編検討分科会において、再編のコンセプトや方向性、運行ルート、利用促進策などについて検討を重ね、また、市内各地で開催した市民説明会での意見も取り入れるなど、市民協働による計画づくりを推進しました。

箕面市地域公共交通活性化協議会

利用者アンケート・市民アンケート調査・OD 調査

オレンジゆずるバス再編検討分科会

- 構成員 : 50 名
- 検討方法: ワークショップ形式
- 検討内容: 再編のコンセプト、運行ルート、利用促進策 等

市民説明会

- 内容: 分科会での検討経過
オレンジゆずるバス再編ルート案
本計画(素案)について 等

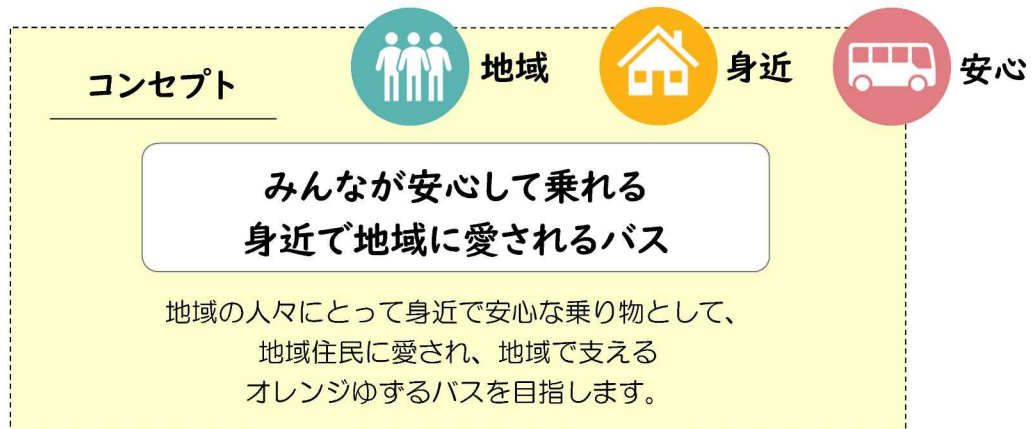


6 オレンジゆずるバスの再編

オレンジゆずるバスの再編のコンセプト

オレンジゆずるバスの再編のコンセプトを検討するにあたり、分科会において、「地域」(地域住民がバックアップ、地域の魅力を発掘・発信、地域に愛される)、「身近」(気軽に乗れる、通院等の日常生活で使える、快適な乗り継ぎ・連携・情報サービス)、「安心」(使いやすい、居心地の良い、安心して乗れる)がキーワードとして出されました。

現在のオレンジゆずるバスのコンセプト「市民に愛され使いたくなるバス」をふまえつつ、上記3つのキーワードを包括するコンセプトとして、オレンジゆずるバスの再編のコンセプトを次のとおり設定しました。



7 オレンジゆずるバス再編計画

オレンジゆずるバスの再編にあたっての基本的な考え方

運行ルート

- ▶ 現在の運行ルートと同じく循環型の3ルート（赤・青・黄ルート）を基本とし、市内各所から利用者が多い主要施設へ乗り換えをせずアクセスできるルートとします。
- ▶ 時刻表どおりの運行により、安心してオレンジゆずるバスを利用できるよう、定時性の確保に配慮したルートとします。

運行時間・ダイヤ設定

- ▶ 利用者にとって分かりやすい1時間に1本のパターンダイヤを設定します。
- ▶ 利用者の多い市立病院での受付開始時間に配慮したダイヤを設定します。
- ▶ 月曜～金曜は市立病院や箕面市役所などへの利用者数が多く、車内の混雑が生じているため、混雑緩和を図ります。

運行の概要

オレンジゆずるバス再編にあたって、全ルート共通の運行の概要は下記のとおりです。

項目	内容
運行時間	7～18 時頃
運行ダイヤ	1時間に1便のパターンダイヤ
実施主体	箕面市地域公共交通活性化協議会

項目	内容
運行事業者	阪急バス株式会社（予定）
事業の種類	一般乗合旅客自動車運送
運送の形態	路線定期運行

ルート別 再編の内容

ルート別の再編内容は下記のとおりです。

赤ルート

項目	内容
再編の特徴	・西部北地域と東部中地域を循環し、新設する箕面萱野駅を經由 ・青ルートと補完し合いながら運行サービスを提供
キロ程	25.8km
運行便数	13 便（土日祝：10 便）

青ルート

項目	内容
再編の特徴	・中部地域と東部北地域を循環するルート ・赤ルートと補完し合いながら運行サービスを提供
キロ程	26.1km
運行便数	13 便（土日祝：10 便）

黄ルート

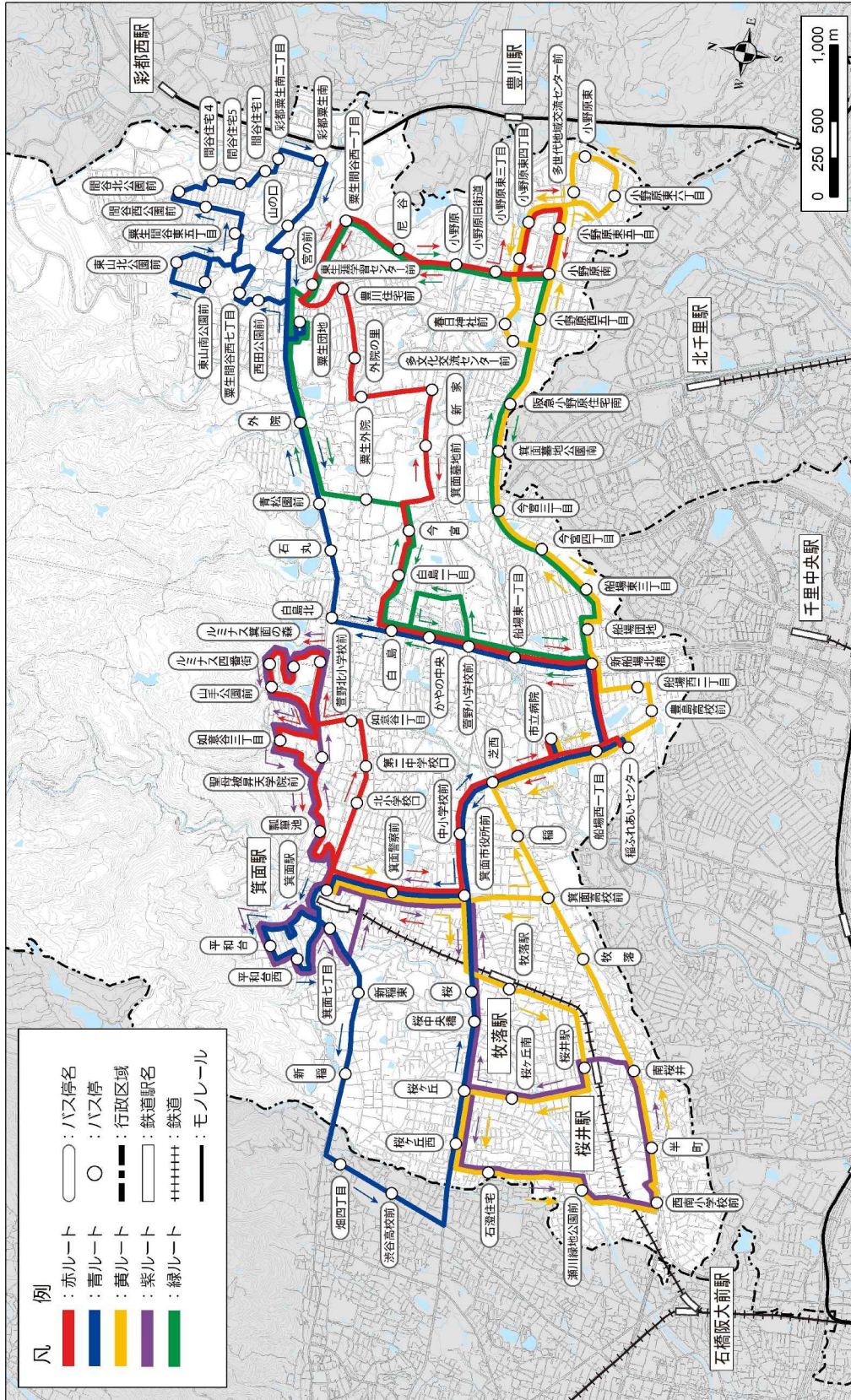
項目	内容
再編の特徴	・西部南地域と東部南地域を循環するルート ・概ね現行通りの運行ルートを維持しつつ、一部のルート変更により定時性を確保
キロ程	26.0km
運行便数	12 便（土日祝：9 便）

緑ルート（新設）

項目	内容
再編の特徴	・箕面駅と箕面萱野駅（市立病院経由）を往復するルート ・月曜～金曜において利用者数が多い時間帯に運行し、混雑解消及び定時性を確保
キロ程	10.6km
運行便数	5 便（土日祝：運行なし）

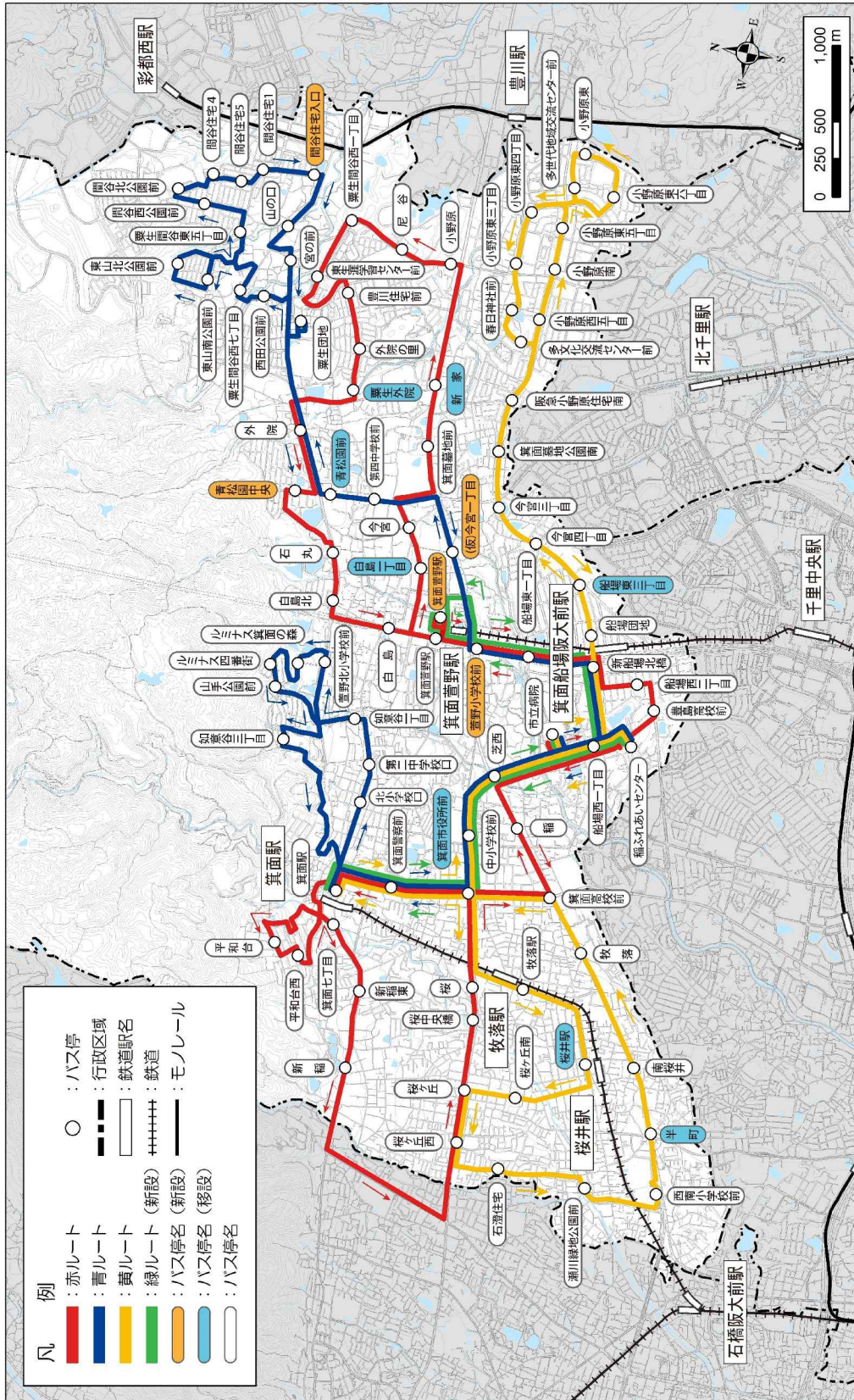
8 オレンジゆするバス再編前の系統図

現在のオレンジゆするバスは、箕面駅、箕面市役所、市立病院などの主要施設と市内各所を結んで運行しており、路線バスを補完し、路線バスが運行していない地域や、路線バスでは乗り継ぎを要する区間をつなぐルートを行っています。



9 オレンジゆずるバス再編後の系統図

再編後のオレンジゆずるバスについては、現行の運行ルートに基づき、再編後の路線バスの運行ルートとの重複を考慮するとともに、時刻表どおりに運行ができるよう、定時性の確保を図ったルートで運行します。



10 評価基準

オレンジゆずるバスの再編の評価について

オレンジゆずるバスの再編にあたり、再編当初は一定期間を実証運行として、適時、下記の評価基準値の達成状況を評価します。

オレンジゆずるバスの再編の評価基準

再編後のオレンジゆずるバスの評価基準については、「収支率」、「バス1便あたりの利用者数」、「バス停1日あたりの利用者数」を評価指標として基準値を設定します。

なお、基準値については、将来にわたっての運行の維持・確保に向けて、事業の継続性や妥当性を評価するための数値を設定します。

オレンジゆずるバス見直し基準

評価指標	指標設定の意味	目標値	方策	
収支率 $\left[\frac{\text{運賃収入}}{\text{運行経費}} \right]$	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の継続性・妥当性を評価するための最も基本となる指標 ・「利用者負担：行政負担」が「1：1」となる数値を基準として設定 	50.0%	達成	・割引運賃の適用範囲の拡大等を検討
			未達成	・割引運賃の適用範囲の縮小等を検討
バス1便あたりの利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しの対象とするルートや運行時間帯を判断するための基準 ・上記の収支率を達成するために必要な利用者数を基準として設定 	【赤・青・黄】 48人/便 【緑】 20人/便	達成	・運行時間帯の維持または拡大を検討
			未達成	・運行時間帯の縮小を検討
バス停1日あたりの利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ・見直し対象とするルートやバス停を判断するための基準 ・上記の収支率を達成するために必要な利用者数を基準として設定 	8人/バス停・日	達成	・ルートやバス停を維持 ・バス停の新設を検討
			未達成	・ルートやバス停の廃止を検討 ・他ルートとの統合を検討

箕面市オレンジゆずるバス再編計画（案）（概要版）

発行年月：令和5年(2023年) 月 発行：箕面市・箕面市地域公共交通活性化協議会
〒562-0003 大阪府箕面市西小路 4-6-1 電話：(072) 723-2121 (代表)